

中学道徳通信



特集 スポーツと道徳

巻頭インタビュー

「青春って、すごく密なんです」の仙台育英高校監督が語るスポーツと道徳の力

須江航

仙台育英学園高等学校硬式野球部監督

平真由子

金沢工業大学基礎教育部准教授

メンタルのコントロールは道徳授業で磨かれる

菅明男

道徳教育研究者



新連載

ICT教育の旗手たちの提言

わが市のICT教育は未来創造者育成にあり

横尾俊彦

佐賀県多久市長 全国ICT教育首長協議会会長

授業参観「言葉の向き」

デジタルと紙の長所を生かした道徳授業

名手久美子

東京都大田区立田園調布中学校

すでに役立つデジタル授業のツボ⑤

「ロイロノート」はじめての1歩

小倉千明

ジャーナリスト

新連載

授業前に確認しておきたい

道徳用語の基礎知識

菅明男

道徳教育研究者



特集 スポーツと道徳

一流のスポーツ選手や校内球技大会などをテーマにした道徳教材は少なくありません。多くは目的に向かって諦めず挑戦し続ける姿や、仲間とともに目標に向かって頑張る様子が描かれています。しかし、スポーツは努力や精神論だけで表層的に授業をしても、子どもたちは結果を先回りした「模範的な考え」しか答えないかもしれません。夏の甲子園で東北勢初の日本一に導いた仙台育英学園高校の須江航先生、一流アスリートから初心者までスポーツのコーチングを行う金沢工業大学の平真由子先生、道徳授業研究家の菅明男先生に、それぞれの立場からスポーツと道徳の関係について深く解説していただきました。

「青春って、すごく密なんです」の仙台育英・須江航先生が語るスポーツと道徳の力

次は日本一のチームではなく 幸福度の高いチームをつくりたい！

夏の甲子園100年を超える歴史の中で、東北に初の優勝旗を持ち帰った仙台育英学園高校の教訓で硬式野球部監督の須江航先生。「青春って、すごく密なんです」はじめ、従来の優勝インタビューにはなかった視点で受け答えをして、コロナ禍のなか満足いく学生生活を送れない子どもたちにも大きな反響がありました。こうしたコメントができるのは、独特の指導法の表れであり、その下地には、中学校の教訓として道徳の授業と向き合い、寮に住み込み、子どもたちと寝食をともにした経験が生きているようです。

須江航

学校法人仙台育英学園高等学校硬式野球部監督

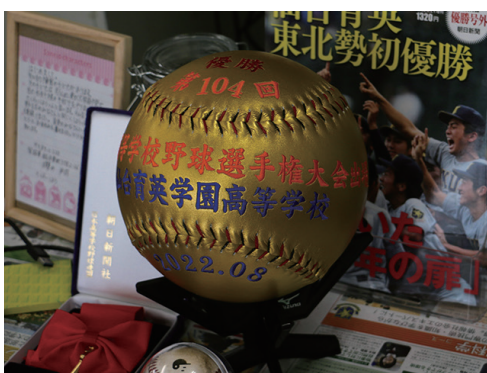
文／西尾典文 写真／編集部

部員だけでなく 保護者にも密な連絡

東北勢悲願の甲子園初優勝を成し遂げた仙台育英の須江航先生。高校に赴任する前は付属の仙台育英秀光中学校で野球部の監督を務めており、2014年には全国中学軟式野球大会でも優勝を果たしている。中学野球、高校野球の両方でここまで成果を出している指導者

は他にはいないが、まず中学生の指導について話を聞いた。

「うちは中学校から寮があるので少し特殊な環境だと思えます。小学校を卒業してすぐに寮生活となると、生徒によってできることの差が大きいですよね。当然大変なことは多いです。ただ、早くから寮生活をするので、デメリットはないですね。いつかは自分で自分のことをしなさいといけない環境





に身を置く時が来るわけですから、それが早く訪れること、家族以外の大人や年長者と生活することによって精神年齢が高くなるケースが多いです。家庭での生活が恵まれていたということにも早く気づくことができるので、家族への感謝の気持ちも持つようになります。あとは中学から寮に入ってくる生徒は勉強も野球も頑張りたいという明確な目的意識を持っているので、それは大きいかもしれませんね。ただ何となく寮生活をするというのとは違うと思います」

須江先生は寮に住み込み、寮から学校に出勤していた。先生が指導していた中学の野球部員の中には入室して一緒に生活する子も多かった。もちろん全員が全員スムーズに成長していくわけではない。そんななかでどういったことを重視しながら指導していたのだろうか。

「小学校を卒業したばかりの子には難しいことですけど、まずは自分がここにいる意義を問うことですよね。それを嫌味にならないように、高圧的にならないようにと根気強く接することが大事じゃないでしょうか。あとはこちらが話をするというよりも、話を聞いてあげることだと思います。これは中学生に限らず高校生でも同じですね。質問する時も『はい、いいえ』で答えられるものではなくて、答えが広がるようなオープンクエスチョンをしてみると、だんだん色んなことを話してくれるようになります。そういったことの繰り返しを丁寧に行っていくことは心掛けています」

親元を離れてホームシックになる生徒もいそうなものだが、中学、高校ともそういったケースは全くとっていいほどないという。それだけ目的意識を持って入室してくる生徒が多いということだろう。ただ逆に生徒と保護者のコミュニケーションをとるように指導することは重要だと言う。

「親元を離れての寮生活が逆に心地よくなるケースも多いです。部員のな

かには、こちらが言わないと保護者に3カ月も連絡していないというようなことも起きてきます。そうなるかと保護者からは不安が出てきますよね。だからそうならないようにというのは気をつけています。今はコーチが寮監をしているので任せていますが、当然何かあれば最終的な責任は監督の自分にあります。だから中学生でも高校生でも幼稚園レベルでの気遣いは必要だと思います。幼稚園だと『今日はお洋服汚してしまいました』みたいなことを連絡帳に書くじゃないですか。それくらい些細なことでも、何かあれば保護者にしっかり伝えるようにすること、は、教員側の姿勢としてありますね」

教員に必要なのは 傾聴力。そして 他者との違いを 認めること

ここまでは寮生活を中心に話を聞いたが、実際の野球にかかわる指導についてはどんなことを心掛けているのだろうか。

「一つは多様性。他者と違うことを認めるということですね。野球部に限らず部活って限られたコミュニケーションじゃないですか。その中で常識が一般社会と大きくずれていることがないようにというのは心掛けていますね。リーダーシップを持ったカリスマ的な指導者が『行くぞ!』と言った時に、全員が何も考えず同じ方を向くというのは気



自分ですべき と考え実行 できた上で 良い結果を 残せることが 幸福だと思う

持ち悪いと僕は思うんですね。それはもう、教育の域を超えていることだと思いません。ただ昔の高校野球ってそういうイメージも少なからずありますよね。でも僕は、『右向け』と言われた時に左を向いている子がいても有無を言わず認めないということはしないようにしています。ここで大事になってくるのは、さっきも言った生徒の話を聴くことですよね。年齢や学年で聴く内容はもちろん変わります。年齢が低いと内に抱えている悩みが多いですし、逆に上になってくるとその子の考えが固まってくるので、なぜそう考えるのかみたいなことを聴く必要が出てきます。カリスマ性のある先生、監督が『こうだ！』って言って生徒が動く時代はとつくに終わっていて、今の教員、指導者に求められるのは聴く力、傾聴力じゃないですかね」

メンバー選考は 部員と価値観や 選考基準を共有

個人競技ではない野球の場合、試合に出場できる人数、ベンチに入れている人数も限られている。仙台育英のような多くの部員を抱えるチームでは、当然メンバーから外れる選手も

多く、指導者にとってその選考は最も難しい仕事の一つでもある。須江先生はそんなメンバー選考にどのような向き合っているのだろうか。

「まずは価値観と選考基準を共有することですね。何ができたか、何に到達したらメンバーに選ばれるのか、そして、なぜそうしているのか、目標や目的、チームの理念があって、そこから逸脱していたらメンバーには選ばれないよ、ということを柔らかく話をしたりします。それでも100%全員が納得することは難しいですけど、メンバーから外れた生徒も選考の中に間違いなくいたということ、自分もチームを作っている一員で、チームへの関わり合いが深いということ、それがあれば大きな混乱は起こりません。自分のことを見てもらえていない、チームから干されている、みたいなことは確実にないと思います」

仙台育英は投手、野手それぞれあらゆる指標をとり、レギュラーメンバー入りするための基準を数値でも示している。そういったやり方であれば確かに納得感は大きいだろう。しかしその一方で、基準を明確にしているからこそ出てくる難しさもあるという。

「目標やメンバー入りするためのラインが明確だからこそ、逆にモチベーションに波が出てしまうことはありますね。自分では到底メンバー入りのレベルではないなと感じてしまう選手も出てきます。そうなった選手にはエン

トリーを変えるようにしています。総合力でレギュラーが難しければ、打撃を磨いて代打の枠を狙うとか、ポジションを変えて勝負するというケースもありますね」

目指すのは幸福度の高さ。 挫折でこそ人は成長する

中学も高校も部活ができる期間は3年間よりも短い。そのなかで成果を出そうとすれば、あらゆることを排除して、野球だけに集中した方が効率が良いという考え方もあるが、須江先生はそのやり方では最終的に上手いかないのではないかと言う。

「そういう考え方も確かにありますが、最終的に問われるのは人間としての総合力だと思っんですよ。野球のプレーも人間的な評価も多くの場合は、短所が長所を消してしまうんですね。こんないいところがあるのに、これができるから台無しだよねということが多い。だから短所に対して丁寧に対処していない人間はやはり評価されないと思います。学校の部活動である以上、野球だけやっていけばいいということはないです。やりたいことをやりたければ、やりたくないことにもしっかりと向き合う必要があります」

スポーツの世界で天才と言われる選手でも競技以外のことを疎かにして成功している例はまずないと言われていて。そして須江先生が重要だと考えているのが、挫折に対してどう向き合う



須江 航 すえわたる

1983年埼玉県生まれ。仙台育英学園高校進学後は2年生の秋に選手から学生コーチに転向し、3年春に出場した2001年の選抜高校野球では記録員として準優勝を経験した。八戸大（現・八戸学院大）でも学生コーチを務め、卒業後は仙台育英の付属校である秀光中学校に教諭として赴任し、全国大会優勝に導く。2018年1月に仙台育英学園高校に異動、監督に就任し、2022年夏には甲子園優勝を果たした。



かということだ。

「選手もチームも全てが順風満帆に進むということはありません。3年間の学校生活でもそうですし、長いスパンで見たら人生や競技生活で必ずどこかで壁にぶつかる、挫折をすることがあります。その時に短所に向かう姿勢を疎かにしていると、対応する引き出しがないんですよ。」

逆に挫折があることを前提に人生を歩んでもらいたいと思つて生徒には接しています。それに挫折した時がいちばん人が成長する時だと思えますね。だから挫折のない人生は面白くないという思考ができるように持つていきたいですよね。挫折することで初めて工夫が生まれて、そこから人としての総合力が上がっていく。そう考えられるようになってもらいたいです」

中学でも高校でも全国優勝という最高の成績を残した須江先生だが、チームは幸福度の高いチームだと言う。その点についても聞いた。

「何が幸福かというのは色々な考えがあると思いますが、僕が考える幸福というのは選択権が自分にあるとい

うことです。最終的にそうなるために我慢が必要な時期もありますけど、最後には『せねばならない』ではなく、自分で『すべきだ』という考えで実行に移せるといことが大事だと思つています。それは野球においても人生においても、自分がこれを選んだと言える状態にできることを目指しています。これが第一条件で、そのうえで成果が出ることです。僕たちは勝ちに向き合っている集団です。最終的に勝てなければ幸福とは言えません。今は勝ちを目指すと云うと勝利至上主義で良くないと言われることも多いですけど、成果を求めて取り組むことと、勝てば何でも良いということとは違います。目標に向かって計画を立てて実行して振り返りをする。成果を求めるときの原理原則ですから、そこにこだわることは当然のことです」

高校野球の世界で成果というところからいやすいのには甲子園での優勝である。しかし選手にとっては当然そこで人生が終わるわけではない。本当に大切なのはその後の人生であることは間違いないだろう。須江先生はどんな人生を送ってほしいと考えているのだろうか。

「最終的な幸福、成功として考えていることは、ある一定の年齢になって家庭や仕事で自分にかかわる人間を幸せにできていると自負できるようにするかっていうか、ということじゃないですかね。経済力や人望や、それを示すものは人によって様々だと思いますが、自分にかかわっている人が幸せだと思つてい

できたなら、自分も間違いなく幸せだと思いますよね」

人間は他人に何かを与えることで幸せを感じるという研究結果もあると言つた。そういう意味では須江先生の思考もその研究成果に重なる部分がありそう。最後に

にそういう人間になるために、中学生や高校生の時期にどのような取り組みをすればいいのだろうか。須江先生は次のように答えた。

「まずはやらなければならないことに対して誠実に向き合う力が必要だと僕は思います。短所が長所を消してしまふことであらゆることが遮られてしまふということがあると思つています。だから今できないことから逃げない、胆力のようなものは身につけたいですよね。あと挫折についても先ほど言いましたが、折れたとしても終わつたわけではないということ、ちゃんと伝えたいですね。特に学校というのは失敗が許される場ですから。よく『人生は敗者復活戦』みたいなことを言うんですけど、成功している人も団体でも常に右肩上がり順風満帆なわけではありませぬ。挫折を経てどうやって成長していくかが大事だよということはいえたいですね」



メンタルのコントロールは 道徳の授業で磨かれる

文／平 真由子 金沢工業大学

一流のスポーツ選手はメンタルが強いと思われがちですが、生まれつき強いわけではなく、トレーニングを積み重ね、様々なメンタルの要素を獲得してきたから。その要素の一つに「自己理解を深める経験」が挙げられます。すなわち道徳科の授業は、子どもたちのメンタルを鍛える絶好の機会と言えるのです。

平 真由子 たいらまゆこ

金沢工業大学基礎教育部教職課程准教授
中学校に勤務しながら大学院に進学し、個人やチームのパフォーマンスの向上と発揮に関する心理的要因について研究。子どもから一流スポーツ選手にメンタルのコーチングを行う。学校教育の実践家としての経歴を踏まえ、研究と実践との橋渡しがライフワーク。



メンタルは誰でも 鍛えることができる

たとえ一流のスポーツ選手であっても、弱音を吐くことも、上手くいかずに落ち込むことも、怪我に焦ることも、試合から逃げたいと思うこともあります。

ただ、スポーツ選手はパフォーマンスの向上や、パフォーマンスの発揮のために自己のメンタルを鍛えるトレーニングを行っているため、とりわけ良い結果を出している選手は「メンタルが強い」とされることが多いと思います。道徳の教材で「夢に向かってあきらめずに挑戦する人」、「不屈の精神を持っているたくまし

い人」、「仲間とともに目標に向かってがんばることができる人」として描かれることが多いのはそのためと言えるでしょう。

では、「メンタルが強い」とはどういうことでしょうか。いろいろな解釈があると思いますが、私は、「自分のメンタルを時と場合に応じてコントロールする能力が高いこと」と捉えています。人間である以上、誰でも落ち込んだり、イライラしたり、不安になったりすることがあるのは当たり前です。まして、慣れない環境でパフォーマンスを発揮しなければいけない時に、緊張して落ち着かなくなるとも至極当然のことです。

私はいままでに中学生から社会人

まで、地区大会一回戦負けの選手から国内外のトップ選手まで、メンタル面でのコーチングをしてきました。年代や競技能力・競技成績に関係なく、それぞれにメンタルの課題がありました。そして、全ての人がメンタル面の適切なトレーニングすること、自己成長をしていく姿を見てきました。

パフォーマンスに関連するメンタルには、遺伝要因もあることが確認されていますが、100%遺伝で決まるものではないことも示されています。つまり、誰しもトレーニングや学習でパフォーマンス面でのメンタル獲得は可能なのです。このことを知っているか知らないかは大きな差

でしょう。さらに、自分の能力は予め決まっていると考えるか、成長可能だと考えるかで、その後の行動選択が変わっていきます。

では、自分のメンタルを時と場合に応じてコントロールできるようなるためにはどうすればよいのでしょうか。それは、どのような時もあるがままの自分を受け入れ、適切な対処を選択することです。しかし、「あるがままの自分を受け入れる」というのは、非常に難しい作業です。まずは自分を理解することができていないと、受け入れることも対処することもできません。

そこで、メンタルトレーニングでは、自己理解力を高めるトレーニン



グが重視されています。
国内外で活躍するトップアスリートは、自己理解力が非常に高いのが特徴です。その自己理解と関連する能力としてメタ認知能力が挙げられ

どのような対処を選択することが自分に合っているかも理解しているのです。
テニスプレーヤー・国枝慎吾選手は、

ます。メタ認知能力を、わかりやすく表現すると、見る、聞く、書く、話す、考えるといった通常の認知活動をもう一段高いレベルから客観的に捉えることができない能力のことです。つまり自分を外側からモニタリングする能力のことを言います。トップアスリートは競技を通して、またメンタルトレーニングを通して、メタ認知能力を鍛えています。自分が調子の良い時、悪い時を多角的・多面的に分析しています。そして自己分析だけではなく、コーチやチームメイトにも分析してもらい、より深く、より広く、自身自身を理解するように努めています。そのうえで、最高のパフォーマンスを発揮するために、

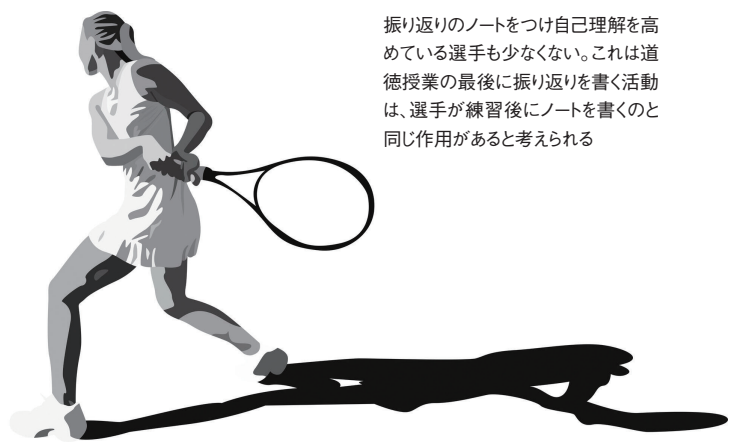
東京五輪前に自分自身の不安に気づき、メンタルコーチに自ら相談するという選択をしています。そして、メンタルコーチとの対話の中で、自分がすべきことを明らかにし、大会に臨み、苦難を乗り越えて、金メダルを獲得しました。

また、大リーガーの大谷翔平選手や、東京五輪金メダリストの卓球の伊藤美誠選手が、練習や大会の後に振り返りノートを書いて、自己理解を深めていたのは有名な話です。

道徳の授業は自己理解力を鍛える好機

「特別の教科『道徳』の学習指導要領には、道徳科の目標の中に、「自己を見つめる」ことが明記されています。自己理解は他者との関係性の中でより深まります。道徳科の授業の中で、クラスメイトと考え・議論する活動を通して、自分の中にある価値観、思考、感情が明確になっていきます。また、道徳科の授業の最後に本時の振り返りを書く活動は、まさにスポーツ選手が練習後にノートを書くのと同じ効果が期待できます。道徳科の授業を「自己理解力を鍛える機会」という観点でデザインすることで、授業そのものが、生徒たちにとってメンタルトレーニングの場になるのです。

振り返りのノートをつけ自己理解を高めている選手も少なくない。これは道徳授業の最後に振り返りを書く活動は、選手が練習後にノートを書くのと同じ作用があると考えられる



先日あるアスリートとミーティングをしました。その選手は、他の選手に比べ、自己理解力が高いという特徴があります。それにも関わらず、「最近、また新しい自分の一面が見つかりました。自分の意識を少し変えただけで、こんなにもパフォーマンスが変わるのかってくらい変わったんです。新しい自分を知るのを楽しんでいます」と言っていました。
道徳科の授業を通して、「新しい自分を知るのを楽しんでいる」と思える生徒たちが増えてほしいものです。

選手の努力や苦勞に偏らず 考えや行動から主題を学ぶ

文／菅

明男

道徳教育研究者

スポーツを扱った教材は、簡単なようで実は難しいものがあります。その原因は、苦しい局面を乗り越えたことばかりが強調され、子どもたちは、あの人だからできたと感じてしまうから。まずは人物から主題について描かれている部分に着目し、生徒に考えさせることが大切です。

スポーツ選手の達成感 や喜びを感じさせる

スポーツを扱った教材は数多くあります。今回はスポーツを扱った教材を生かす手立てをいくつか紹介します。

スポーツだから親しみやすそう、知っている選手の話だから楽しそう、偉業や活躍が描かれているから学びやすそうに思いますよね。

本来、そうあるべきなのです。でも、なかなかそうはいかない、授業ににくい、そんな体験をしたことありませんか。

生徒の中には、スポーツが苦手な

生徒もいます。その競技の内容やルールを知らない生徒もいます。

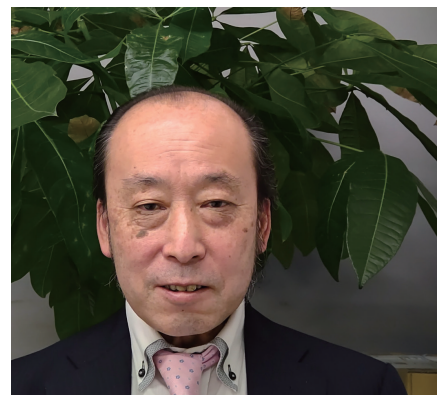
スポーツを扱った教材のほとんどは、ノンフィクションなどの文章の一部を教材としたものです。内容項目に当てはめて選んだ部分が教材化されており、内容項目のAやBを主題とした教材が多くあります。

A-1「自主、自律、自由と責任」、A-2「節度、節制」、A-3「向上心、個性の伸長」、A-4「希望と勇氣、克己と強い意志」、B-6「思いやり、感謝」、B-7「礼儀」、B-8「友情、信頼」などが多いです。

指導事例を見てみると、発問で多く見られるのが、努力し続けた場面やつらさを乗り越える苦勞の場面に

菅 明男 すげあきお

1959年生まれ。元東京都中学校教諭で、数多くの道徳教材を開発し、全国の小中学校で模範授業や講演などを行う。全日本中学道徳研究会事務局次長、東京都中学校道徳教育研究会研究部副部長、東京教師道場助言者、文科省「心のノート」実践事例作成委員などを務めた。



着目したものです。しかし、そういう努力やつらさを乗り越えることは、その選手だからできたことだとか、もともとすごい人なんだとか、自分にはできないとか、生徒の気持ちから乖離していくのではないのでしょうか。「あの人だからできたけれど、自分にはとうてい無理」と思ってしまう。私はまず、その人物の達成感や喜びを感じさせることが大切だと思っています。そのうえで、その人の考えや行動から、主題について学んでいくようにします。

スポーツ教材とICT との親和性は高い

一つ目の発問は、国枝さんがとても嬉しかっただろう場面の気持ちと自分と重ね合わせて考えさせます。努力や苦勞の結果、喜びが得られることを感じさせるのです。

二つ目の発問は、国枝さんが語つ

た三つのことから、その考えについて、自分は何を受け止めたのか、何を感じたのかを聞きます。主題に関わ

る国枝さんの考えなので、生徒たちの「向上心」に対しての多様な考えが表出されます。ICTを活用する

場合には、文章のデータ分析ができるテキストマイニングを使い、生徒から表出されたキーワードを图示して見せるのも効果的でしょう。

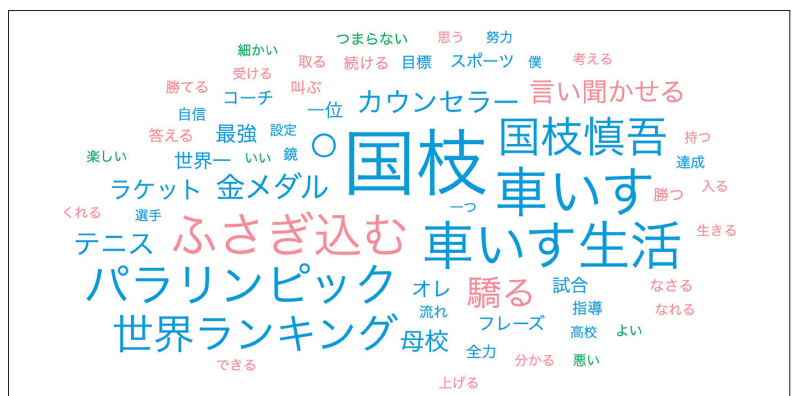
三つ目の発問では、主題に迫って考えさせます。「向上心」に対して自分のこれからの課題を考えさせます。スポーツが題材の教材では、導入と終末で効果的にICTが活用できます。

導入では、情報端末を使い、その競技の内容やルールについて写真や図を提示して説明したり、競技の映像を見せたりできます。登場する選手が活躍した場面の映像を見せて紹介することもできます。

終末には、情報端末の検索機能を使い、各自でその選手のことについて調べ、学習を広げていくことができます。その選手のインタビュ映像を見せたり、エピソードの紹介をしたりして印象づけて終えることもできます。

よく「人物から学ぶ」と言いますが、一時間の道徳の授業では、その人物の姿を通してから主題について学ぶのです。主題について描かれている部分に着目して、そのことについて生徒に考えさせることが大切です。

以上、私の考えを述べましたが、まだまだ様々な指導の工夫があると思



テキストマイニングの一例。UserLocal(<https://keyword.userlocal.jp/>)で「オレは最強だ!」の本文の出現回数を文字の大きさや色で表現したもの。生徒たちから表出されたキーワードを可視化できる

います。ぜひ「スポーツを扱った教材」を活用し、よりよい授業を行ってください。

スポーツは、道徳教材のネタの宝庫でもあります。

テレビ番組などの映像（試合、ニュース、ドキュメントなど）、文章（新聞記事、ノンフィクション、随筆など）。タイムリーなものを、補助教材として活用することができます。スポーツで、楽しい道徳の授業をしましょう。



オレは最強だ！

車いすテニス界をリードする日本の国枝慎吾さんは、約十年の間、世界でもトップクラスであり続けています。

国枝慎吾さんは、小学四年生の春、脊髄腫瘍を患い、車いす生活になりました。ふさぎ込んで家でテレビゲームばかりしていたのを母親が心配して、小学校六年生の時、車いすテニスを勧めたのです。スポーツが大好きで野球少年だった国枝さんは、めきめきと腕を上げ、高校在学中から海外試合を回り始めました。二〇〇四年のアテネ・パラリンピックスでのダブルスを手始めに、三度の

パラリンピックで金メダルを獲得しました。二〇一五年には五度目となる年間グランドスラムを達成し、その技術は「車いすテニスに革命をもたらした」と言われています。

※以下の本文はQRコード、URLからダウンロードをしてください。

指導事例

教材名：オレは最強だ！

対象：1学年

主題名：「向上心、個性の伸長」 内容項目：A-3

ねらい：自己と向き合い、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばしていく生き方を追究させたい。



パスワード nikkamember を入力してアクセスしてください
<https://www.nihonkyokasho.co.jp/nikka-memberpage/>

指導過程

※ ()内は ITC を活用した場合

	学習活動及び主な発問	指導の流れ	配分
導入	説明を聞く。 (タブレットPCで写真を見る)	車いすテニスについて簡単に説明する。 (タブレットPCで写真を見せる)	3分
展開	教材を読む。	教師が音読する。	6分
	1 あなただったら世界ランキング1位になれた時、どんな気持ちになったと思いますか。	国枝さんが自身を見つめ直し、自身を励ましていたことを示唆する。 指名で発表させる。	10分
	2 国枝さんが母校で話した三つのことについて、あなたはどのように思いましたか。 (タブレットPCでみんなの意見を見る)	ワークシートに書かせる。 班で意見交換させる。 (どのようなキーワードが出たか示す)	16分
	3 自分自身のよさを伸ばしていくために、あなたはどのようなことを大切にしていきたいですか。	ワークシートに書かせる。 隣同士の生徒で意見交換させる。 指名で発表させる。	12分
週末	自己評価表と感想を記入する。 (タブレットPCで映像を見る。) (国枝さんについて各自検索する)	自己評価表と感想を書かせる。 (車いすテニスの映像を見せる。) (タブレットPCを使って国枝さんを検索させる)	3分

ICT教育の旗手たちの 提言

わが市のICT教育は 未来創造者育成にあり

文／横尾俊彦 佐賀県多久市長

早くからICT教育に取り組み、ICT教育アワード総務大臣賞を受賞するなど、この分野でのフロントランナーとして一歩先に挑む佐賀県多久市。

しかし同市では、ICT教育は単なる技術革新の延長ではなく、未来を創造する若者を育成することを目標にしています。

市長就任以来、数々の困難を乗り越え、進化させてきた横尾俊彦氏の特別寄稿を紹介します。



横尾俊彦 よこおとしひこ

1956年生まれ。市内小中学校、小城高校を経て、慶應義塾大学（在学中にカナダ留学）を卒業後、松下政経塾に第1期生として入塾。卒業後は地元で地域おこし活動に参加。1997年、多久市長選挙に無所属で出馬し初当選。以後7期連続で多久市長を務める。2013年4月から多久市内小中学校10校を再編し、市内3中学校区で小中一貫教育を同時開校する全国でも数少ない展開の取り組みを行い、2017年度からは義務教育学校として推進している。併せて、21世紀の情報化社会を生き抜く子どもを育むため、電子黒板やICT支援員などのICT教育環境を全国に先駆けて整備し、ICT教育充実を図っている。全国ICT教育首長協議会会長、文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員。

ICTは単なる 情報通信技術ではなく I Create Tomorrow

ICTは Information & Communication Technology（情報通信技術）ですが、私は「ICT=I Create Tomorrow」を提唱しています。つまり、子どもたちが「僕（私）が未来を創る」と感じて動く、そんな未来を可能にする教育、未来創造型の人材育成です。ICT端末を活用し、情報収集・共有、

調査、プレゼンなどのスキルを習得し、「未来のクリエイター育成」をして、社会に役立つ人づくりを進めるのです。子どもたちが、小さな課題解決経験を通じてやりがいや喜びを感じ、社会的ソリューションに進んでほしいと願っています。

多久市がICT教育に注力しているのは、海外教育視察で日本の遅れを痛感したからです。先進の国々では21世紀に必要なスキル等を踏まえた教育充実を戦略的に取組み、教

時代を先取り ICT教育アワード 総務大臣賞に輝く

多久市も学校でのデジタル化は、はじめから順風満帆ではありませんでした。私が市長就任した1997年当時、市内学校パソコン室は鍵を



写真提供：多久市

かけて機器を保管し、日常的活用は少ない様子でした。時代遅れでWindows搭載なしという窮状でした。識者助言を受け、(当時の)通商産業省補助事業を先進的学びに活用してPCを配備。1人1台PCを想定するも、教材開発のため時期尚早と考え、電子黒板整備を先行させ、文部科学省補助金も活用し、当時の全校(3中学校と7小学校)のすべての普通教室に一斉導入しました。

ICT支援員も各校に1人配置しました。この時期、小中一貫校3校に統合再編し、幾度かの民間実証事業等で市の負担なしで各校にPC100台を確保。次に総務省事業で学力向上と教職員の働き方改革をフルクラウドで実施しました。クラウド活用は時代先取りの判断からです。マイクロソフトやソフトバンクの支援でテレワークも可能にできました。

その結果、全国ICT教育首長協議会のICT教育アワード総務大臣賞に輝きました。その後、GIGAスクール構想で1人1台PC端末が整い、現在も順調に推進中です。

フルクラウド化では、当初、校内通信インフラが必ずしも良好でなく、レスポンスが悪い、すぐに切断等の

問題があり、2018年度に全教室でインターネット接続可能な校内LANに改修しました。2020年度に多数同時接続可能なルータに交換し、翌年度に回線スピードを1Gに拡充。今は支障なく活用されています。

ソフト面では、クラウドシステムの設計・運用等に詳しい人材がおらず、2016年度総務省先導的教育システム実証事業に参加し、産官学連携でクラウド実装に挑みました。ITアドバイザーとも随時情報交換し、スペック確認、機器厳選、全体推進を図りました。その際の経験が現在のクラウド環境の設計・運用の基礎になっています。

ICTは子どもたちと教師に大きな変化をもたらした

ICT教育充実にはベストプラクティスの実践事例情報も有益です。全国ICT教育首長協議会はその提供に努め、文部科学省に事例紹介も要望しました。切磋琢磨は不可欠だからです。学校現場の実践交流は、活動内容のマッチングや、時期設定の課題があり、今後の充実が大切です。

ICT教育の旗手たちの 提言

GIGAスクールでは当初からPC端末家庭持ち帰りを基本にしました。家族に学びの様子を知ってもらえば理解も広がります。実証事業でも、ICT学習ドリルは学力向上を促進します。朝イチの学びは、子どもたちの学びの集中力スイッチを入れ、他教科も学力が伸び、個別最適化も可能になります

学力向上だけではありません。感染拡大が進んだときは、市内の学校ではリモート授業を速やかに行いました。そんななか、海外の故郷に帰ったお子さんが何人かおり、コロナ禍の中で再来日でできなかったことがありました。しかし海外にいても、リモートで教室の子どもたちが手を振って「おはよう、今日も元気!」「元気だよ!!」など声をかけ合っていました。ネットを介して毎日会っているものですから、海外から戻って来た後も、何の違和感もなくクラスのみんなに溶け込むことができました。このあたりは、子どもたちのネットの順応性や感性の豊かさを学べました。

教師の働き方改革にもICT教育は有効です。若手教師からもICT教育の自主的提案が増えました。時

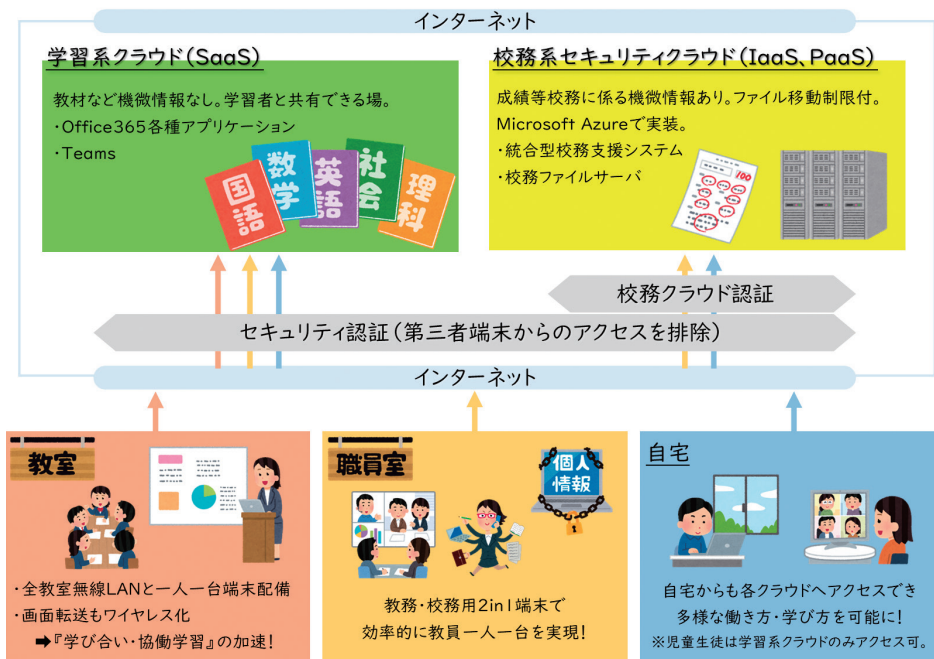
間外勤務も年々短縮です。一方で、教頭の時間外勤務時間は多く、改善が必要で、テレワーク導入で時間や場所を選ばず業務可能となり、オンラインの会議や研修受講も可能になりました。ICT機器整備は重要であり、ネットワーク増強や高速プリンター導入で業務が円滑化します。加えて、データ収集、アンケート処理が容易になり業務改善できました。

しかし、子どもたちと違って、導入時には教師たちはICT機器と格闘する場面もありました。そこで大いに役立ったのは、機器の使い方が活用まで不明点に答えるサポート体制の充実でした。各校に配置されたICT支援員が教師の疑問に答え、教師のICTスキルを向上させました。なかなか成果が上げられないと悩む自治体があるなら、教師の不安を取り除く仕組みづくりも必要だと思います。

シンガポールの教育視察の際、国立教師育成センターを拝見し、仕組みづくりの重要性を実感しました。近々市場に出る最新鋭機器が2教室分のスペースに並び、自由に触れて体験でき、廊下や教室には国の教育方針とミッション、教師の職責の重

要性、人材育成の至言などが掲示されています。都市国家の総力を挙げて教師をレベルアップし、その教育力で国の繁栄を担う人材を育成する使命感が伝わります。

我が国も、世界の水準がどのような



になっていくのか、日本としての教育のあるべき姿、児童生徒への適切な教育の具現化などに大いに力を注ぎ、未来を創る教育を着実に進めることが何より重要で、

熱意があれば手法は無限のはず。日進月歩、いい

え秒進分歩する技術革新を活かしつつ、未来を担う世代に大いに期待と情熱を伝えていくべきです。

もちろん「人間力」向上も忘れずに、と声を大にして申し上げたいです。

多岐市のパブリッククラウド化の概要。個人情報の保護はもちろん、授業だけでなく、教務の効率化も図られている。テレワークで多様な働き方が可能になったり、生徒1人1台の実現によりコロナ禍でのリモート授業でもスムーズに行える

デジタルと紙の長所を生かした道徳授業

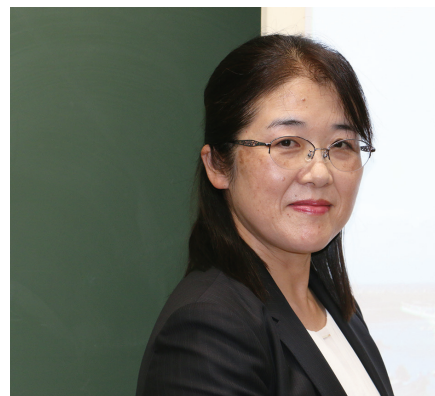
名手久美子

東京都大田区立田園調布中学校

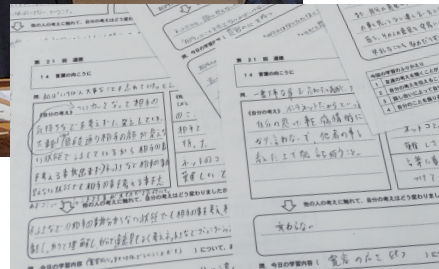
全国に情報端末が行き届いたとはいえ、文系の授業とりわけ道徳の授業ではデジタル技術を十分に生かされていないと感想をもつ先生も少なくありません。そんななか、コツコツと研究を重ね、道徳の授業に反映させている事例をご紹介します。

名手久美子 なてくみこ

数学が専門教科ながら、道徳授業に関しては文系思考も発揮、ローテーション授業のメリットを生かし、学校行事や季節なども考慮して教材を選び授業に臨む。デジタルとアナログの融合で生徒たちの活発な議論や深い学びを促す。



デジタルとアナログの長所を生かした授業。ワークシートにはびっしり書き込まれている



積極的な発言を導き出せるデジタルツール

たとえ情報端末をサクサク使っても、授業にどう生かすかお悩みの先生方は少なくないでしょう。

数学が担当の名手久美子先生も、道徳授業では試行錯誤を重ねたそうです。

「数学の授業ではドリルや指標などでは日常的にデジタル授業を展開していますが、道徳の授業に関しては、(紙の)教科書とデジタル端末を併用して、それぞれの良さを生かしています」

名手先生がデジタルのメリットを

実感したのは、普段発言しない生徒が、秘匿性のあるツールを使うと、積極的に自分の考えを発表できることだといいます。

「恥ずかしがり屋な生徒でも堂々としっかりまとめられますね。もちろん、意見を書いたり発言したりする場面で否定をしないというというルールにしていますが、デジタルの強みを感じられます」

グループ内の討議ではグループワークのジャムボードが有効だそうです。

「グループでまとめた考えは付箋機能を使い、一斉に発表することで、多様な考えを可視化できます」

一方、「ワークシート」は紙のアナ

ログ方式を選んでいきます。フォーマットを作成して端末から入力して保存もできますが、「紙」に書くことも大切ですし、文字から生徒たちの気持の高まりを感じることができず。評価に際しても使いやすさといえます」と名手先生は語ります。

このように、アナログの教科書とデジタルとを組み合わせて授業をしたのが、教材「言葉の向こうに」です。左ページに名手先生の指導案を掲載しました。教材を読んだ後は、紙のワークシートと端末を併用しながら授業が展開されました。

生徒たちの活発な発言があったことは、アナログの「ワークシート」に表れています。

名手先生の指導案

1 主題名 寛容の心 内容項目 B-9 相互理解、寛容

2 教材名 言葉の向こうに (出典:文部科学省「中学校道徳 読み物資料集」より ※弊社中学校2年教科書ではp74～)

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/01/24/1318784_7.pdf



3 ねらい

それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする態度を育てる。自分の考えに固執せず、寛容の心をもって他者と接することにより、お互いに学び合い高め合い、よりよい人間関係が築けることに気づかせたい。主題である「寛容の心」について、孔子の言葉や山岡鉄舟の言葉を取り上げることにより、望ましい人間関係の在り方について深く考えさせ、情報モラルについても触れさせたい。

4 指導の工夫

①一人につき1台タブレット(アプリはGoogle Classroom)を利用することにより、周囲の生徒の考えを短時間で理解し、話し合い活動を活発に行わせる。

②電子黒板を用いて、各班の意見を学級全体で共有し、多面的・多角的に考えを深めさせる。

5 指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1. 好きなスポーツ選手のファンサイトで悪口を見かけたら、どうするか、想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特に何もしない。(日頃から書き込みしない。SNSのルールだから悪口は書かない。) ・反論を書き込む。 	○SNSへの書き込みの経験の有無や、経験がある場合に書き込まない理由をたずね、教材への関心を高める。
展開	2. 教材「言葉の向こうに」を読み、考える。 発問①「中傷する人たちと同じレベルで争わないで」という書き込みを見て、「私」はどう思ったのだろう。 中心発問 「私」は「一番大事なことを忘れていた。」とは、どんなことを忘れていたのだろう。 補助発問①相手が悪口を書いたのに、相手の気持ちを考えなくてはいけないのか。 補助発問②「私」が発見した「凄いこと」とはどんなことだろう。 補助発問③ファンサイトの他の人や母親の対応はどうだろう。 発問②「寛容の心」をもつとは、どういうことだろう。 補助発問④「他の人の意見を尊重する」というのは、自分の意見を控えることだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に応援していたのに、なぜ私を悪く言うのか。 ・私は悪くない。悪いのは悪口を書いた人だ。 ・SNSでは人の悪口を言わないこと。 ・相手の気持ちを考えること。 ・同じファンサイトを見る他の人の気持ち。 ・冷静に、広い視野で物事を理解しようとする気持ち。 ・冷静に自分の考えを伝える態度。 ・相手の個性や立場を尊重して、いろいろな考え方を認めること。 	○A選手を守ろうと必死で反論していたことを確認し、ショックや悲しみ、怒りの気持ちを共感させる。 (ワークシートに自分の考えを記入して、タブレットに入力する。4人組で話し合い活動をした後、学級全体で共有する。) ○SNSで、悪口を言わない理由を確認する。(過剰な同調やいじめへの発展など) ○様々な個性や立場があり、様々な意見を理解し、尊重することや広い視野に立って物事を理解しようとする態度が大切であることを確認する。 ○本時の主題を示し、「寛容の心」の意味を考えさせる。 ○孔子や山岡鉄舟の言葉を紹介し、主題について考えを深めさせる。
終末	3. 本時で学んだことや感じたことをまとめる。		○情報の危険性や真偽についても簡単に触れる。

6 評価

言葉の向こうにそれを受け取る他者がいることや、異なった考えを受け入れることの大切さを理解した発言や記述があったか。

集計結果を瞬時に“見える化”でき出力も可能！

ロイノート・スクールの基本の「き」

小倉千明 ジャーナリスト

通信技術を活用したコミュニケーション「ICT（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）」をご紹介するこのコーナー。全国の中学校で多くの導入事例がある「ロイノート・スクール」は、ICT教育を語る上でも外せないアプリケーションのひとつです。対面授業でも、オンライン授業でも、感覚的に使えるメリットがあり、教師と生徒間の情報共有や提出物管理がしやすくなる点が大きな特徴です。

テキストにしたり動画にしたり 自在にアレンジできる「カード」

ロイノート・スクールの特徴である、カード機能を使えば、テキスト・動画・写真・Web上の情報など、さまざまな方法で各自の考えをまとめられます。

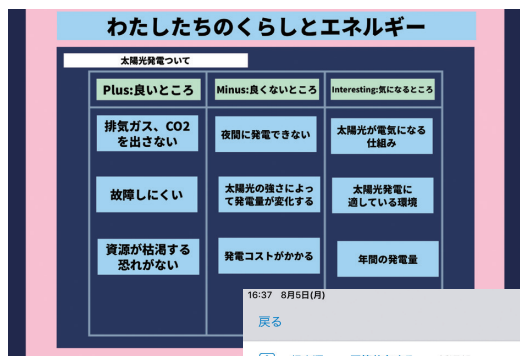
例えばテキストツールを使って、タブレットPCなどで入力した感想文を「テキストカード」にしたり、カメラ機能を使って紙に書いたものを写真に撮って「画像カード」にしたり、音声や動画を録画して「映像カード」にすることもできます。これらのカードは、オンライン上にある「資料箱」にデータ保存できるだけでなく、提出物として生徒から教師へ送ることができます。

教師にとっては、オンライン上で提出物の管理ができるのは便利。提出の可否も一瞬で把握することができます。

テストカードで、各人の回答や アンケートの集計もラクラク！

テストカード機能を使えば、小テストや投票機能のあるアンケート、出欠表も簡単に作成することができます。例えば小テストの場合、選択式・自由記述

など多様な問題の作成が可能で、回答や結果は（道徳の授業では点数評価は必要ありませんが）自動採点もできます。授業内でリアルタイムに回収することも、後日宿題として提出させることもできます。アンケートの集計結果は、自動的に図式化・データ化され、エクセルデータとして出力も可能です。



回答や結果は匿名で公開すれば、プライバシーを守って授業内で投票結果を生徒たちに伝えられるのは大きなメリットでしょう。また他の先生が作成した課題を複数のクラスで利用することもできるので、学年単位で統一した基準をつくることも簡単です

授業の前に確認しておきたい

道徳用語の基礎知識

菅明男 道徳教育研究者

理解していても一言で説明しにくい用語を道徳教育研究家の菅明男先生が解説します。同じ用語でも道徳の授業ではニュアンスが少し異なるものもあり、道徳の授業の前に目を通していただきたいと思います。「道徳用語の基礎知識」第1回は、デジタル授業に関する基礎用語です。

GIGAスクール構想

1人1台端末環境は、令和において学校の「スタンダード」であり、特別なことではない、という文部科学省の方針が、2019年に出されました。それに基づいた、全国の児童・生徒一人に1台のコンピュータと高速ネットワークを整備するという取り組みがGIGAスクール構想です。ソサエティ5.0を政府が提唱しています。情報化社会の次の社会への変革。来るべき社会で子どもたちがしっかりと生きていく力を育くむ。それがこの構想の背景です。

学校では、ICT化が推進されていますが、道徳科での取り組みについては文部科学省から指針が出ていますので、以下を読んでください。

「GIGAスクール構想のもとでの中学校特別の教科道徳の指導について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zvshou/mext_00014.html

学習支援ツール

デジタルツールの分類は、以下のようになります。

デジタルノート（発表支援ツール、タブレットPC等の情報端末上で文字を書き込んだり画像を貼り付けたりできる）

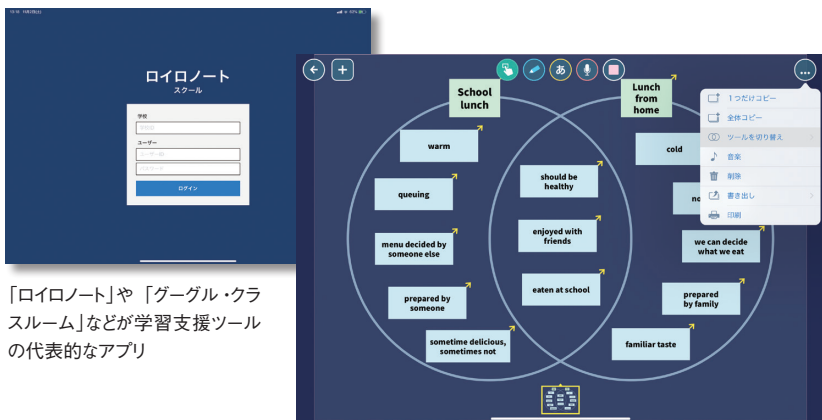
協働学習支援ツール（タブレットPC等の画面を他のタブレットPCで共有できる）

コミュニケーション支援ツール（チャットのようにリアルタイムでメッセージや画像、動画のやり取りができる）

テレビ会議システム（遠隔地と映像や音声で交流できる）

*詳しくは文部科学省「先導的な教育体制構築事業」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zvshou/detail/138460.htmを参照してください。



「ロイロノート」や「グーグル・クラスルーム」などが学習支援ツールの代表的なアプリ



電子付箋

紙の付箋をデジタル化したものが電子付箋です。生徒の意見や考えを視覚化する手立てとして活用します。アプリによって、色分けできたり、写真を貼り付けられたりするものもあります。クラス全体で、グループで、意見を共有したり、意見の内容を分類したりと、様々な活用できます。

チャット

ネット上でメッセージのやり取りができる機能です。複数の参加者がリアルタイムで意見のやりとりをすることができます。多様な意見の発表が期待できます。ただ、適正な活用がなされるよう配慮しましょう。

日本教科書からのお知らせ



メンバーページへのアクセスをより便利にしました

メンバーページへのアクセス

- 1 日本教科書ホームページ下部の「日本教科書メンバーページ」ボタンを選択します。
- 2 「日本教科書メンバーページについて」が表示されますので「メンバーページにアクセス」ボタンを選択し、表示された画面のパスワード入力欄に、「nikkameber」を入力下さい。



メンバーページでは、授業支援資料を随時アップロードしてまいります。このような資料があったら便利というご要望、ご意見などがありましたら「日本教科書メンバーページについて」内記載の連絡先または、弊社HP「お問い合わせ」メールフォームからご連絡ください。また、アクセスできない、格納されているデータがダウンロードできないといったことがありましたら同様にご連絡ください

日本教科書ホームページからメンバーページにアクセスできるようになりました。以前は、弊社広報誌のQRコードもしくはWebページアドレスの直接入力という二通りの方法のみでアクセスいただいていたメンバーページですが、より利便性を向上させるため、ホームページからも直接アクセスできるよう改修しました。これからも先生方の道徳授業をサポートできるような資料を公開し、内容を充実させていきますので、ぜひ閲覧ください。

全教材の発問例を一挙に公開しました

教科書や指導書の発問追加する形で全教材の発問例を公開しました。

基本発問・中心発問・主題に迫る発問 の三つの分類で、発達段階などに合わせた発問例。クラスの状況に適した発問例を選んで利用できます。

発問例 1年生

教材名	内容項目	発問
おはよう	B7 礼儀	基本発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「母や近所のおばさんたちが、「うちの子どもはまだごあいさつもできませんで……。」などといったことについて、あなたはどのように思いますか。 ・「わかりきったことをいふよりも、おたがいに誠意を持っていることこそだいじなのではないか」という「わたし」の考えをあなたはどのように思いますか。 ・「誠意はだまっても通じるはずだ」という「わたし」考えをあなたはどのように思いますか。 ・「あやふやな「おはよう」とはっきりした「おはよう」の違いは何だと、あなたは思いますか。 ・「「おはよう」にも、りっぱなのとそうでないのがある」とはどういうことだと、あなたは思いますか。
		中心発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「ほかの人たちとおなじように、「おはよう」や「さようなら」を声に出していうとしてみると、それはなかなか容易なことではない。」ということについて、あなたはなぜだと思いますか。 ・その場にふさわしいあいさつについてあなたはどのように考えていますか。 ・あなたにとってのあいさつの意義とは何でしょう。
		主題に迫る発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「自分と他人のあいさつが違って、今後をどうしたいか」とはどういうことですか。
銀色のシャープペンシル	A1 自主、自律、誠実と責任	基本発問 <ul style="list-style-type: none"> ・「買ったシャープペンシルを「自分で買った」と言った時、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。 ・シャープを卓也のロッカーに突っ込んだ「ぼく」の行為を、あなたはどのように思いますか。 ・「「ぼく」が「ぼく」を「ぼく」として、今後は何をしたいか」とはどういうことですか。
		中心発問 <ul style="list-style-type: none"> ・あなたが「ぼく」の立場だったら、卓也の家に向かって歩出した時、どんな気持ちになっていると思いますか。 ・オリーブを見た「ぼく」はどんな気持ちになっていると、あなたは思いますか。
		主題に迫る発問 <ul style="list-style-type: none"> ・誠実(せいじつ)な行動をするためにあなたは何が必要だと思いますか。 ・「判断(はんだん)したことに責任をもつ」ということについて、自分の考えをまとめてみましょう。 ・「誘惑(ゆうわく)に負けず、自分で判断するためには、どんな心構え(こころがまえ)が必要だと思いますか。

発問ごとにコピー・ペーストや文章の変更も可能。オリジナルの組み合わせ、発問で授業がしやすくなります。

評価文例集からオリジナルの 評価文を時短作成できます

道徳の授業での評価は、年間指導計画（ホームページ内に格納）に従って授業を進め、評価の材料を蓄積し

ていきますが、弊社のメンバーページには「評価文例集」を格納していただきます。これを参考にすれば効率よく

評価文が作成できます。ぜひお試しください。

③ 顕著な活動のあった教材

C	D	E
教材名	書き出し	顕著な活動のあった教材
マナーとルール	授業では、教材の内容に対する自分の思いをもとに、課題についてしっかりと考えています。	「マナーとルール」の授業では、自分の行動を振り返りながら、まきまりを守る意義について考えて深めていました。

「教材名」で選択した単元に連動した評価文例が3例表示されるので、そこから選択します。

① 教材名

A	B	C	D
出席番号	氏名	教材名	書き出し
		マナーとルール	

プルダウンリストから教材名を選択。

④ 授業での活動

E	F	G
顕著な活動のあった教材	授業での活動	共通評価
「マナーとルール」の授業では、自分の行動を振り返りながら、まきまりを守る意義についての考えを深めていました。	いつも自分の考えや意見を、積極的に挙手話し合いの活動では、班長としてスムーズ自分の考えや他の人の意見を、これからの積極的に参画して発言しています。課題に	

プルダウンリストから生徒の授業での活動にあわせた文例を選択。

② 書き出し

C	D	E
教材名	書き出し	顕著な活動のあった教材
マナーとルール	授業では、自分の知識や情報を生かして、多面的に課題	

プルダウンリストから生徒の実態に合わせた書き出し文例を選択。

⑤ 評価文例完成

H
評価文例
授業では、教材をしっかりと読み取り、自分と重ね合わせながら考えています。「マナーとルール」の授業では、自分の行動を振り返りながら、まきまりを守る意義についての考えを深めていました。積極的に挙手して発言しています。課題に対して、しっかりと考えており、自分の考えをみんなに伝えようとしています。

①から④までで選択した文例が「評価文例」の欄に表示されます。

道徳評価文例集のExcelファイルには、より詳細な使い方を記載しました。印刷してマニュアルとしてもご利用いただけます。その他にも、文例集作成にあたっての解説や留意点なども記載しています

ワークシートが ダウンロードできます

メンバーページに新たな授業用資料を追加、更新しました。弊社道徳中学1年『生き方から学ぶ』、2年生『生き方を見つめる』、3年『生き方を創造する』の指導書に同梱しているDVDに納めている授業用ワークシートをメンバーページに格納しました。

問いや記入欄は、授業や生徒の実態に合わせて変更したり、罫線を追加したり着色することもできますのでアレンジすることができるようになっています。

使い勝手を考慮し、word・Googleドキュメントと、2通りのデータ形式で配布しています。

ワークシートは問いや記入欄の変更、罫線の追加以外にも、図や画像を挿入することもできます。地域教材など、独自教材を用いた授業のワークシート作成にもご利用ください

2 命をつくるもの

組 氏名：

・「食べる」から連想される言葉を考えましょう。

「食べるという根底が抜ける」と、どうして「総ての実態を正しく直感できなくなる」のでしょうか。

発問は生徒や学校の実態に合わせて変更可能

友だちの意見

自分の生活習慣で改善したいことはありますか。

記入欄は罫線をつけるなど自由にアレンジ可能

授業の感想

授業を振り返ってみよう

- ・意欲的に授業に取り組むことができた
- ・新たな学びを得ることができた
- ・クラスメイトの意見を聞いて

考えを深めたり、新たな気づきがあったりした。

A: とてもあてはまる I: まああてはまる
U: あてはまらない E: 全くあてはまらない

出会い、ふれあい、学びあう

「生き方」から学び、「生き方」を見つめ、「生き方」を創造する。

これが私たちの目指す「道徳」です。

先生方の授業をアシストする
メンバーページのアクセスが便利になりました。

メンバーページへのアクセス方法

日本教科書のメンバーページには、
右記の QR コードを読み込んでいただくか、



<https://www.nihon-kyokasho.co.jp/nikka-memberpage/>

を表示していただき、

パスワード nikkamember を入力してアクセスしてください。

また、弊社ホームページ <https://www.nihon-kyokasho.co.jp> からメンバーページに直接アクセスできるようになりました。「お知らせ」下の「日本教科書メンバーページ」をクリックしていただくと、「メンバーページにアクセス」のボタンが表示されますので、こちらをクリックしてください。次の画面でパスワード nikkamember を入力していただくとメンバーページに入れ、評価文例集、ワークシート、発問集をダウンロードできます。



日科 中学道徳通信 vol.8 令和5年1月20日発行

発行所 日本教教科書株式会社
発行人 奈良 威
編集人 三星雅人

デザイン ランドリーグラフィックス
表紙イラスト 青木俊直

本資料は、一般社団法人日本教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、作成されています。
本書の無断転載・複製を禁じます。



道徳専門の教科書会社
日本教科書株式会社

〒150-0011
東京都渋谷区東 1-11-3
電話：03-3518-6345 FAX:03-3219-0660
<http://nihon-kyokasho.co.jp>